

# 小野秀雄コレクションにおける幕末～明治初期の新聞資料

福重 旨乃

## はじめに

東京大学情報学環図書室では、東京大学新聞研究所初代所長であった小野秀雄（1885～1977）の旧蔵資料を保管している。その内容は瓦版・錦絵・新聞・蔵書・ノート・原稿など多岐にわたり、現在までに数回の資料整理が行われた<sup>1</sup>。今回の資料整理では、これまでに整理された資料について、一点ごとにメタデータを付して目録を作成している。今回の整理の過程で幕末～明治初期の新聞資料の存在が明らかになった。

## 1. 小野秀雄コレクションの中の幕末～明治期の新聞資料

整理の過程で明らかになった幕末～明治期の新聞資料は〔表1〕のとおりである（2011年3月1日現在）。これらの新聞資料の形状は、現在の新聞とは異なり、和綴じの冊子となっている。小野秀雄コレクション中の幕末～明治初期の新聞資料のうち、貴重なものを1、2点取り上げたい。

表1 小野コレクション中の幕末～明治初期の新聞資料

新聞名	年号	西暦
中外新報 第1・2号・第2巻第1号・4号～12号	咸豊 8	1858
格林沁・殷兆鏞上書 香港新聞	万延 1	1860
中外襟誌 第1・2・5号	同治 1	1862
官板 バタヒヤ新聞 1～5（巻1～12）・巻22・23	文久 2	1862
官板 海外新聞	文久 2	1862
海外新聞 全		1867
万国新聞紙 初・3・4～6・9集	慶応 3	1867
阪府 外国事務日誌 第1号	明治 1	1868
万国新聞紙 第1～3	慶応 4	1868
日々新聞 第1・5・7・9・13・16・18輯	慶応 4	1868
中外新聞 第8～37号	慶応 4	1868

公私雑報 第1～14号	慶応	4	1868
各国新聞紙 第1集	慶応	4	1868
京都府日誌 第14	明治	1	1868
湊川濯餘 第1	慶応	4	1868
明治元年戊辰・明治二年己巳 東京城日誌	明治	1	1868
江湖新聞 第1～22号	慶応	4	1868
遠近新聞 第11～15号	慶応	4	1868
官許 市政日誌 第1～3号	慶応	4	1868
江城日誌 第1～15	慶応	4	1868
太政官日誌 第2～11・13～20・41・47～56	慶応	4	1868
官許 市政日誌 第2号	慶応	4	1868
もしほぐさ 第1～42篇	慶応	4	1868
外国事務 全	明治	1	1868
都鄙新聞 第1号	明治	2	1869
肥前藩日誌 2号	明治	2	1869
官版 海外新聞 4～12・15～17・36～38・41～49号	明治	3	1870
名古屋新聞 第1・2・5～8号	明治	4	1871
万国新聞 第6号	明治	4	1871
日注雑記 第2号	明治	5	1872
愛知新聞 第9～11・18・30・37号	明治	5	1872
峡中新聞 第1・3号	明治	5	1872
官許 開化新聞 第17号	明治	5	1872
東京日日新聞 第75・877号	明治	5	1872
日新真事誌	明治	5	1872
横浜毎日新聞	明治	5	1872
岐阜新聞 第6号	明治	6	1873
広島新聞 第25号	明治	6	1873
琵琶湖新聞 第26・44号	明治	6	1873
愛知週報 第15・16・18号	明治	6	1873
埼玉新聞 第12～15号	明治	6	1873
郵便報知新聞 第43・53号	明治	6	1873
官許 鳥取県新報 第9～13号	明治	6	1873
明治六年第四月 博覧新聞	明治	6	1873
千葉 新聞輯録 第1・8号	明治	7	1874
明六雑誌 第36～43号	明治	8	1875
平仮名絵入新聞	明治	8	1875
開化之葉 第1～6号	明治	8	1875
中外評論 第1～11号	明治	9	1876

<sup>1</sup> 小野秀雄の略歴、コレクションの整理の経緯及びその活用については矢野美沙子「小野秀雄コレクション及び周辺資料の活用」（センターニュース第20号，2010年3月）に述べられている。

## 2. 中外新報

『中外新報』は中国清朝の咸豊帝の時代（1851～1862）に発行された新聞である。『中外新報』は米国人宣教師の Daniel Jerome MacGowan（中国名：瑪高温）および後任の Elias B. Inslee（中国名：応思理）が編集し、中国寧波で発行された初の中国語新聞であるといわれる<sup>2</sup>。

小野コレクションにある『中外新報』は「浙甯 応思理撰」とあり、創刊初期のものではなく、Daniel Jerome MacGowan 後任の Elias B. Inslee（応思理）によって編集されものであることがわかる。また、返り点や助詞等が印刷され、出版者が「老皂館 東都堅川三之橋 萬屋兵四郎」とあることから、小野コレクションの『中外新報』は、寧波の『中外新報』を日本語版として発行されたものである。

小野コレクションには『中外新報』が第1～12号（咸豊8～11＝1858～61）が残されている。表紙は黄色で、題箋には「官版 中外新報」および西暦と清朝の年号が記されている。寸法は縦227mm、横142mm前後である。内容としては寧波を中心とした中国国内のニュースおよびアメリカをはじめとした国際ニュースが記されている。

## 3. 官板バタヒヤ新聞

『官板バタヒヤ新聞』は幕府の翻訳業務を担当した蕃書調所（のちに洋書調所、開成所。東京大学の前身）が発行

した初の日本語新聞である。アヘン戦争後の国際情勢の複雑化によって、それまで幕府に献上されていた和蘭風説書にかわって献上された新聞紙を翻訳したものである<sup>3</sup>。出版者は先の『中外新報』と同じ「老皂館 東都堅川三之橋 萬屋兵四郎」である。

小野コレクションに含まれる『官板バタヒヤ新聞』は一～五（巻1～12）および巻22・23で文久元・2年（1861・62）の発行である。表紙は薄茶色で、題箋には「官板バタヒヤ新聞」および出版年月日（和暦）および巻数が記されている。寸法は縦227mm、横158mm前後である。内容は海外情勢についての報告である。

## おわりに

今回の整理を行う資料は15,000点余りで、現在三分の一程度の整理が完了している。整理の過程で、書籍や雑誌のほか、小野秀雄のノートや原稿、新聞記事のスクラップ、江戸時代の絵図、戦時中資料や欧米各国やアジア諸国の資料、各大学新聞や地方新聞の創刊号等が見つかった。現在は整理作業の途中であり、今後も貴重な資料が発見されると思われる。今後は整理作業を進めていくとともに、多岐にわたる小野秀雄コレクションの全貌を解明していきたい。

（福重旨乃・情報学環特任研究員）



「中外新報」第1号 咸豊8年（1858）11月



官板バタヒヤ新聞 二（巻4～6）文久2年（1862）年1月

<sup>2</sup> 卓 南生「寧波『中外新報』（1854-1861）の編集方針と報道姿勢」（『国際社会文化研究所紀要』 第10号 2008年6月）

<sup>3</sup> 日本新聞博物館編・発行『新聞のあゆみ－明治から現代まで』2006年5月